

令和8年度第1回国立大学法人静岡大学経営協議会議事要録

日 時 令和8年6月24日（水）14時00分～16時05分
場 所 S－P o r t 3階大会議室
出席者 岩崎、大石裕、大川原、大須賀、坂本、鈴木雅子、野田（Web 参加）、牧田、
三輪の各委員
日詰、塩尻、金原、佐藤、二又、大石人土、鈴木秀美、大島、吉川の各委員
欠席者 平木委員
陪席者 高倉、大橋の各副学長、飯田、河島の各監事

議事に先立ち、議長から、新たに就任した委員について紹介があり、委員から挨拶があった。

I 前回議事要録の承認

令和7年度第7回国立大学法人静岡大学経営協議会議事要録（案）を原案どおり承認した。

II 審議事項

1 学長選考・監察会議委員の選出について

議長から、学長選考・監察会議委員の選出について、資料1により概要説明があった。続いて、佐藤委員から、学長選考・監察会議の業務、組織及び任期等について説明があった。

その後、議長から、学長選考・監察会議における審議の継続性の観点から、大石裕委員、鈴木雅子委員及び牧田委員を引き続き委員として選出したい旨の提案があり、審議の結果、これを承認し、併せて各委員の承諾を得た。

続いて、大石裕委員から、残り1名の委員の選出について、各界のバランスを考慮し、坂本委員を選出したい旨の提案があり、審議の結果、これを承認し、併せて当該委員の承諾を得た。

2 中期目標の達成状況報告書について

大橋副学長から、中期目標の達成状況報告書について、資料2により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

＜委員から出た意見等＞

野田委員：達成状況のうち、進捗が思わしくない課題については、議題として取り上げていただければ、何らかの意見や助言ができると思うので、今後は議題として取り上げてほしい。

3 第4期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書について

大橋副学長から、第4期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書について、資料3により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

4 令和7年度決算について

佐藤委員から、令和7年度決算について、資料4により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

Ⅲ 報告事項

1 令和7年度の静岡大学の主な取組について

議長から、令和7年度の静岡大学の主な取組について、資料5により報告があった。

＜委員からの意見等＞

岩崎委員：静岡大学未来創成ビジョンにおける「未来」とは、大学の未来ではなく地域社会の未来を指すものと理解している。ビジョンを実現するためには、地域社会をどのように巻き込みながら進めていくかが重要になると考えるが、その点を含めた現在の取組状況を伺いたい。

議長：ビジョンは策定するだけではなく、実現に向けた取組が重要であると考えている。そのため、まずは学内の教職員の理解を深めるための説明会を開催した。また、学内調査を実施し、どのような研究が行われているかを把握するとともに、研究者交流会を開催し、共同で取り組めるテーマについて意見交換を行っている。今後は、地域社会の要望やニーズを把握し、それらを踏まえて大学としてどのような働きかけができるか検討していく。

2 令和8年度静岡大学入学試験状況について

塩尻委員から、令和8年度静岡大学入学試験状況について、資料6により報告があった。

＜委員からの意見等＞

大石裕委員：東京の私立大学では、総合型選抜や学校推薦型選抜の募集人員を増やし、一般選抜を減らす動きが見られる。高校においても、そのような動向を踏まえた進路指導が行われていることを考えると、静岡大学においても早急な対応が必要ではないか。

塩尻委員：各学部では、入試実績を踏まえながら総合型選抜への対応を進めており、学部によっては既に対応している。また、入学後の追跡調査を実施し、データを収集・分析している。これらの入試データを踏まえ、入試に関する検討ワーキングにおいて、総合型選抜や学校推薦型選抜へのシフトについて議論を進めている。

3 学部・研究科等の現況調査表について

大橋副学長から、学部・研究科等の現況調査表について、資料7により報告があった。

4 学部・研究科等の研究業績説明書について

大橋副学長から、学部・研究科等の研究業績説明書について、資料8により報告があった。

5 令和7年度資金運用状況について

佐藤委員から、令和7年度資金運用状況について、資料9により報告があった。

＜委員からの意見等＞

野田委員：ネーミングライツ事業は、学生のインターンシップや就職など、企業と結びつく重要な取組であり、自己収入の確保という観点からも、今後さらなる展開が期待される。引き続き工夫を重ねながら推進していただきたい。

6 令和9年度施設整備費補助金概算要求事項について

議長から、令和9年度施設整備費補助金概算要求事項について、資料10により報告があった。

7 令和8年度監事業務監査改善要望事項に対する役員会の基本方針について

二又委員及び飯田監事から、令和8年度監事業務監査改善要望事項に対する役員会の基本方針について、資料11により報告があった。

8 学長補佐の職務変更について

議長から、学長補佐の職務変更について、資料12により報告があった。

9 静岡大学・浜松医科大学連携協議会について

議長から、6月17日に開催された静岡大学・浜松医科大学連携協議会について、報告があった。

IV 懇談事項

1 静岡大学による県内自治体との戦略17分野への貢献

金原委員から、静岡大学による県内自治体との戦略17分野への貢献について、資料13により説明があり、人材育成、地域連携等に関する意見交換を行った。

＜委員からの意見等＞

三輪委員：浜松では、高校生を対象とした「Job EXP0」が今年から開催されるなど、進路形成に向けた取組が行われている。しかし、大学進学を見据えた働きかけは高校生の段階から始めるのでは遅く、小学校高学年から中学生を対象に、静岡大学の教育・研究や取組を積極的に発信していくことが重要ではないか。

大川原委員：大学進学を含めた進路選択は、高校生では遅く、初等教育の段階から取り組むべきではないか。特に、女性の理系人材が増えることは静岡県の方力にもつながるため、ものづくり分野を含め、女性が理系へ進路を選択しやすくなるような取組や教育を進めていただきたい。

大川原委員：静岡大学未来創成ビジョンの9つのゴールと大学の中期目標・中期計画を関連付けながら、中長期的なビジョンや進捗状況を継続的に発信し、学内外への浸透を図るとともに、着実に実行していただきたい。

坂本委員：静岡大学の取組を進めるに当たっては、金融機関をはじめ、税理士や会計士などとの連携も視野に入れながら展開することが重要ではないか。ま

た、静岡大学のシーズや地域・企業への支援内容を紹介する説明会を開催することも一案である。さらに、17 分野に含まれていない課題や、多くの企業・地域が抱える課題についても把握し、対応を検討するとともに、静岡大学の独自性を打ち出していくことも重要ではないか。

鈴木雅子委員：実行することが何より重要である。スピード感を持って取組を進めるとともに、役割分担や推進体制を明確にしていきたい。また、取組内容について積極的に広報していきたい。

牧田委員：会議の進め方について、すべての発言が議事要録に残ることで発言しにくくなる場合もあるため、正式な審議と記録を前提としない自由な懇談とを分けて、委員がざっくばらんに意見を述べられる場があるとよいのではないか。

V その他

1 静岡大学関連記事

議長から、静岡大学に関連する新聞記事について、参考資料として紹介があった。

以 上